

SRC 自主調査の調査結果について

【第4回】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート

感染再拡大期（11月末～12月初旬）の国民アンケート結果 と 春季（3～6月）調査との比較

- 株式会社サーベイリサーチセンターは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年3月以降、様々なテーマで自主調査研究を行ってきました
- 2020年11月の感染再拡大の局面で、11月末～12月初旬にかけてアンケートを実施し、感染防止の意識・行動について春季の調査結果との比較分析や、11月21日～23日の3連休の過ごし方についてまとめました
- この調査は、20歳以上のインターネットリサーチモニターから全国4700人（47都道府県について各100サンプル割付）の回答を得たものです

■調査結果のポイント

1. 感染への不安度

※【 】内はこのレポートの該当ページ

- 「とても不安を感じる」と「やや不安を感じる」を合わせた《不安度》は76.2%【P2】
- 春季（3月、4月、6月）調査で「とても不安を感じる」との回答が最も高かったのは、4月調査の44.4%だが、その当時と比べ、現在の回答比率は約9ポイント低い【P4】
（※4月調査の調査期間は4月3日～4月6日。3月25日に東京都知事が「週末の外出自粛を強く要請」し、3月29日にコメディアン志村けんさんが死去（報道は3月30日）等が注目された直後の時期である）

2. 新型コロナウイルスに関して不安を感じること

- 『いつまで続くのか、見通しがわからないこと』に「とても不安を感じる」が約半数（50.5%）【P5】
その《不安度》は6月当時の調査からほぼ横ばい【P7】
- 治療薬、ワクチン、検査などの体制に関する《不安度》は、6月に比べて低い【P6】
- 社会秩序の維持、不況、進級・進学や感染拡大局面などへの《不安度》も、6月に比べて低い【P7～8】

3. 感染防止のために特に気をつけて行っていること

- 「手洗いやアルコール消毒」88.6%、「咳エチケット・マスクの着用」78.5%が上位2項目となるが、それ以外は半数以下の実施率。気をつけて行っていることが「特になし」との回答者も4.7%ある【P9】
- 6月当時の調査に比べ、手洗い、マスクの上位2項目でも、実施率が横ばいもしくはやや低下【P11】
- 6月との差が最も大きいのは「屋内の換気」で、約16ポイント低下している【P11】
- 「手すりやドアノブなどに触れた指先で、目・鼻・口を触らない」も約11ポイント低下している【P11】

4. 感染症拡大の防止行動

- トップ項目「人が密集するような場所へ行くことを避ける」は、4月に比べ約5ポイント減少している【P12】
- 第2位の「人と接する場合は距離をとる」は、4月の調査結果に比べ、約11ポイント高くなっている【P12】
- 第3位の「食事会や飲み会などに行かない」は、4月とほぼ同水準であった【P12】
- 「ショッピングセンターやショッピング街などに行かない」は、約13ポイント減少している【P12】
- 「食料品など日常の買い物の回数を減らす」「ドライブや観光などに行かない」「スポーツをしたり公園で遊ぶことをしない」といった項目では、およそ6～7ポイント減少している【P12】

5. 11月21日（土）～23日（月・祝日）の外出行動

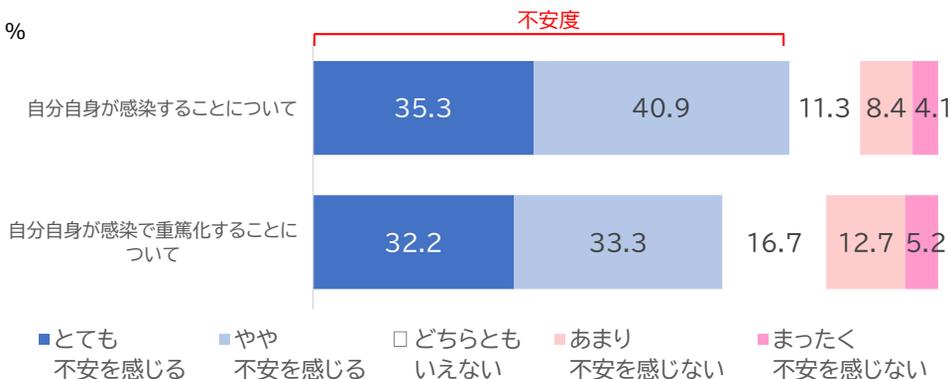
- 3月25日に東京都知事が「週末の外出自粛を強く要請」した直後の土日である3月28日～29日の外出行動と、今回の11月21日～23日の3連休の外出行動を、東京都居住者の回答結果で比較したところ、「まったく外出しなかった」との回答は、3月の59.2%に対し5分の1以下に減少している【P15】
- 外出用途の中で、3月当時を20ポイント前後上回っているのが「仕事」と「近隣の散歩」、15ポイント前後上回っているのが「外食」と「ショッピングセンター等での買い物」である【P15】

■感染や重篤化に対する不安

- 自分自身の感染への不安度（とても不安を感じる+やや不安を感じる）は76.2%
- 自分自身が感染で重篤化することへの不安度は65.5%
- 性別にみると、自分自身への感染、自分自身が感染で重篤化すること、いずれについても、不安度は女性により高く、「とても不安を感じる」と回答した強い不安の構成比も女性の方が高い
- 女性では、自分自身の感染への不安度が8割を超えている（83.0%）

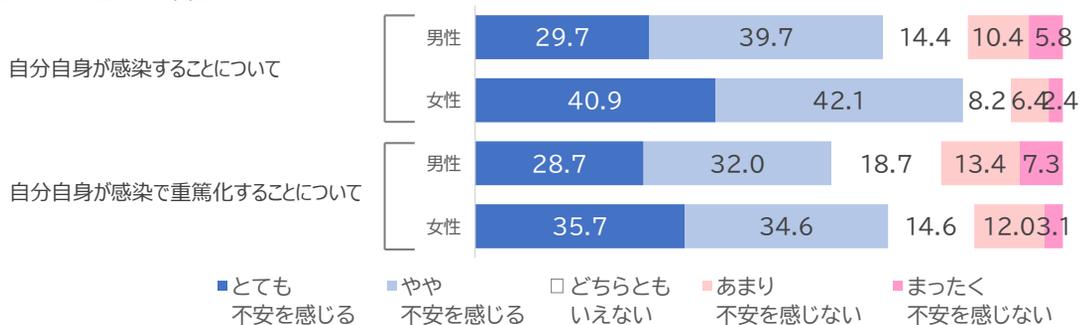
感染や重篤化に対する不安

各n=4700 単位：%



感染や重篤化に対する不安（性別）

性別 各n=2350 単位：%



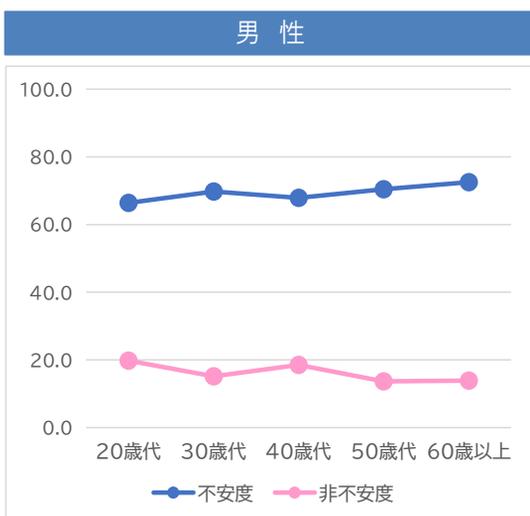
■感染や重篤化に対する不安

- 自分自身への感染について性・年代別にみると、男性では「不安度」が年齢層が上がるにつれ漸増している。女性ではどちらかというとなり40歳代以下で「不安度」がやや高い
- 自分自身が感染で重篤化することについては、男女共に年齢層が上がるにつれ「不安度」が高まり、非不安度が下降している点で、特徴は一致している

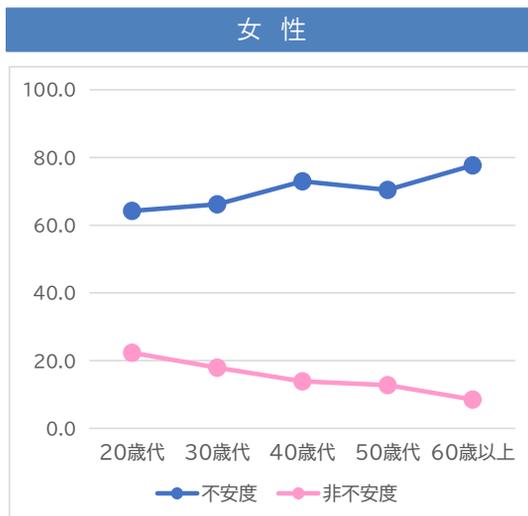
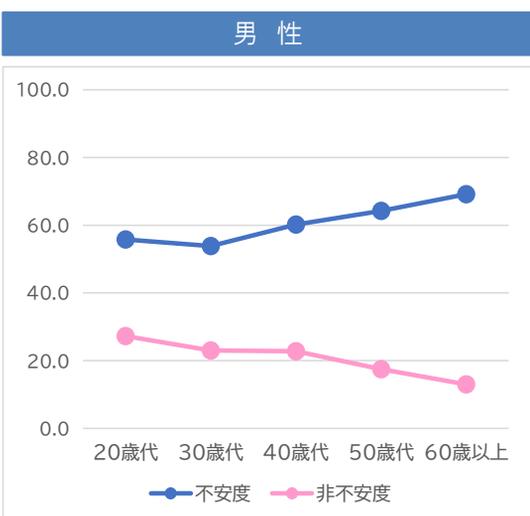
感染や重篤化に対する不安（性・年代別）

性・年代別 各n=470 単位：%

【自分自身が感染することについて】



【自分自身が感染で重篤化することについて】



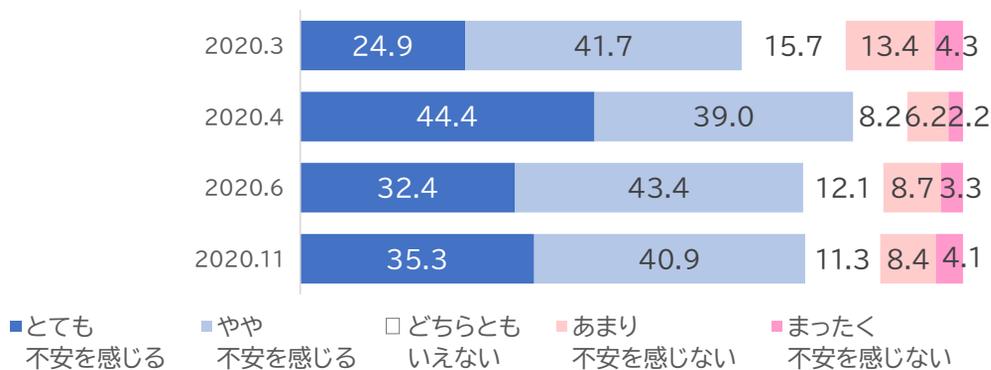
■感染や重篤化に対する不安

- 自分自身への感染への不安度を春季の調査と比べると、現在の不安度は、6月調査当時とほぼ同水準である
- 過去4回の調査で「とても不安を感じる」との回答が最も高かったのは、4月調査の44.4%だが、その当時と比べ、現在の回答比率は約9ポイント低い

(※4月調査の調査期間は4月3日～4月6日。3月25日に東京都知事が「週末の外出自粛を強く要請」し、3月29日にコメディアン志村けんさんが死去(報道は3月30日)等が注目された時期であり、この調査終了から間もなく、4月7日には国が、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府兵庫県、福岡県に緊急事態宣言を発出した時期である)

自分自身が感染する不安 (時系列推移)

各n=4700 単位：%

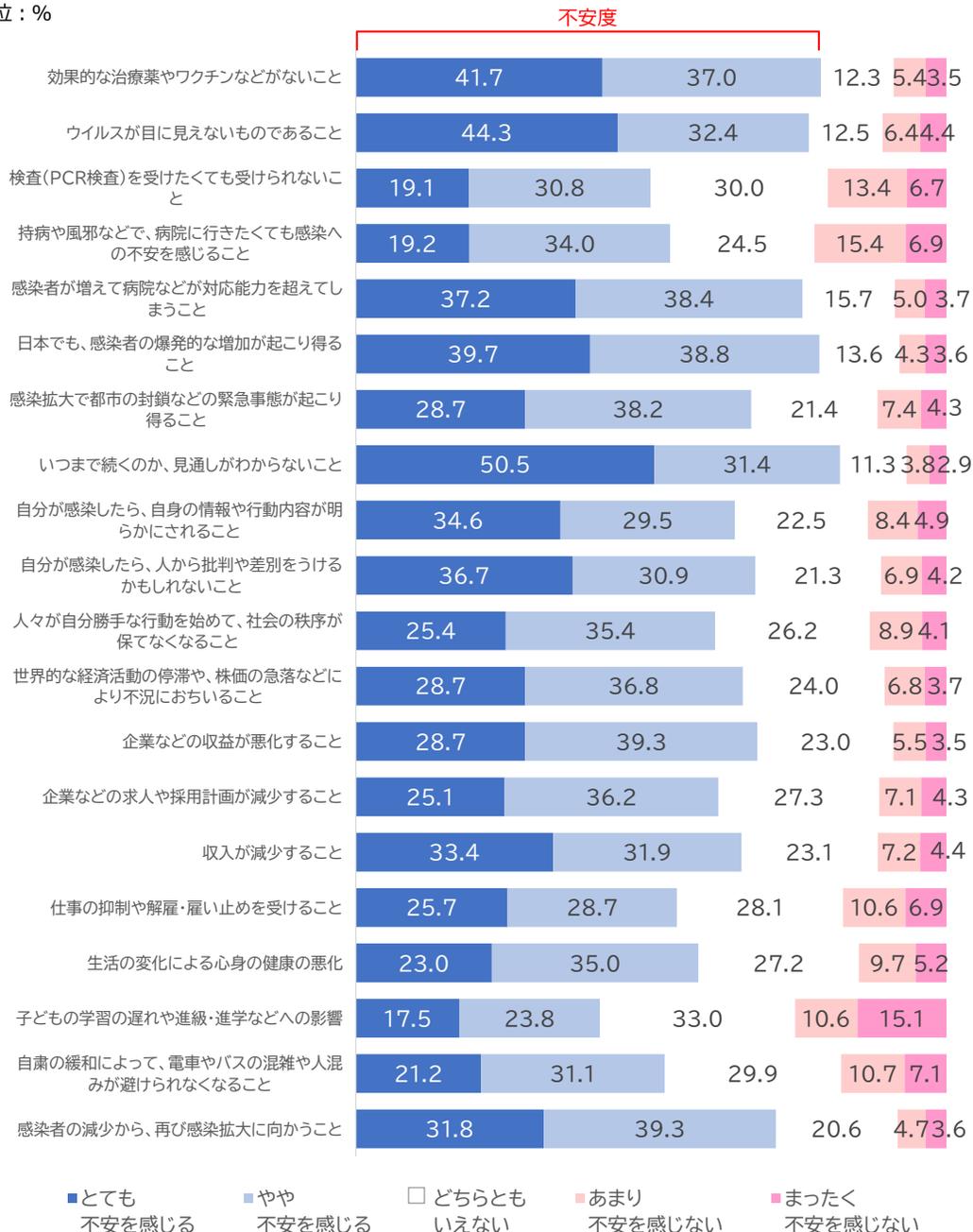


■新型コロナウイルスに関して不安を感じること

- 『いつまで続くのか、見通しがわからないこと』で約半数が「とても不安を感じる」（50.5%）
- 不安度（とても不安を感じる+やや不安を感じる）が8割前後の高い水準にある項目は、『いつまで続くのか、見通しがわからないこと』、『効果的な治療薬やワクチンなどが無いこと』、『日本でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること』、『ウイルスが目に見えないものであること』
- 不安度がおよそ半数を切っているのは『検査（PCR検査）を受けたくても受けられないこと』、『子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響』

新型コロナウイルスに関して不安を感じること

各n=4700 単位：%



■新型コロナウイルスに関して不安を感じること

- 前ページの調査結果から、《不安度》（とても不安を感じる+やや不安を感じる）と《強い不安》（=とても不安を感じる）の値について、全20項目の推移について傾向をまとめた

新型コロナウイルスに関して不安を感じること（20項目の時系列推移）

各n=4700 単位：%

効果的な治療薬やワクチンがないこと

- 不安度はやや低下
- 強い不安は4月に対し19ポイント低下



ウイルスが目に見えないものであること

- 不安度はやや低下
- 強い不安は4月に対し15ポイント低下



検査(PCR検査)を受けたくても受けられないこと

- 不安度は4月に対し17ポイント低下
- 強い不安は4月に対し19ポイント低下



持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じる

- 不安度は4月に対し15ポイント低下
- 強い不安は4月に対し18ポイント低下



感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと

- 不安度はやや低下
- 強い不安は6月に対してほぼ横ばい



日本でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



■新型コロナウイルスに関して不安を感じること

新型コロナウイルスに関して不安を感じること（20項目の時系列推移）

各n=4700 単位：%

感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起こり得ること

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



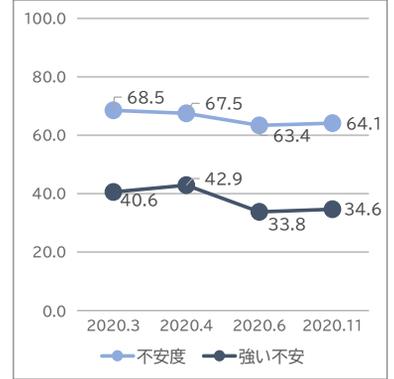
いつまで続くのか、見通しがわからないこと

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



自分が感染したら、自身の情報や行動内容が明らかにされること

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなること

- 不安度は4月に比べ14ポイント低下
- 強い不安は4月に比べ19ポイント低下



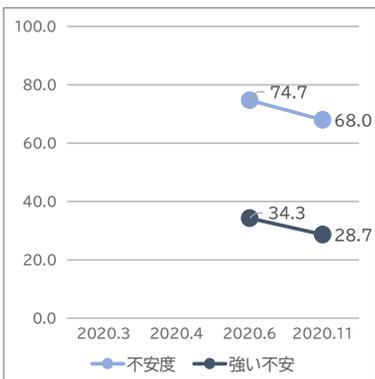
世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいること

- 不安度は4月に比べ14ポイント低下
- 強い不安は4月に比べ22ポイント低下



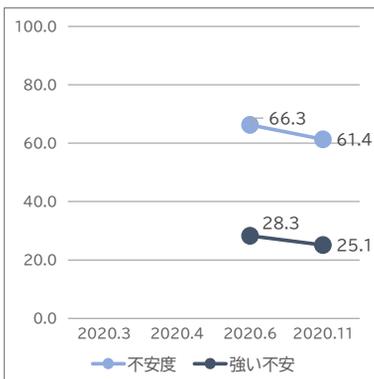
企業などの収益が悪化すること

- 不安度は6月に対してやや低下
- 強い不安も同様



企業などの求人や採用計画が減少すること

- 不安度は6月に対してやや低下
- 強い不安も同様



収入が減少すること

- 不安度は6月に対してやや低下
- 強い不安も同様



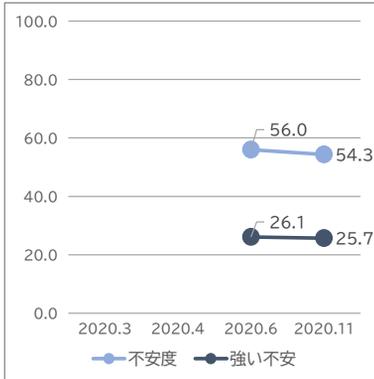
■新型コロナウイルスに関して不安を感じること

新型コロナウイルスに関して不安を感じること（20項目の時系列推移）

各n=4700 単位：%

仕事の抑制や解雇・雇止めを受け ること

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



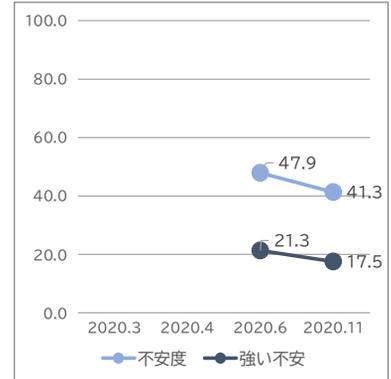
生活の変化による心身の健康の悪化

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



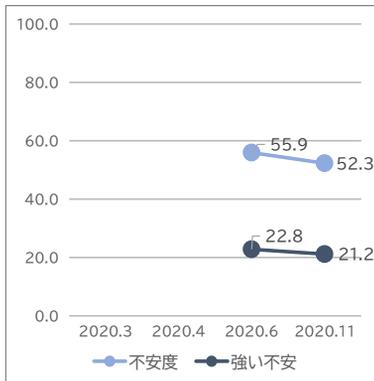
子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響

- 不安度は6月に対してやや低下
- 強い不安も同様



自粛の緩和によって、電車やバスの混雑や人混みが避けられなくなる こと

- 不安度は6月に対してほぼ横ばい
- 強い不安も同様



感染者の減少から、再び感染拡大に向かうこと

- 不安度は6月に対してやや低下
- 強い不安も同様



各調査における設問の有無

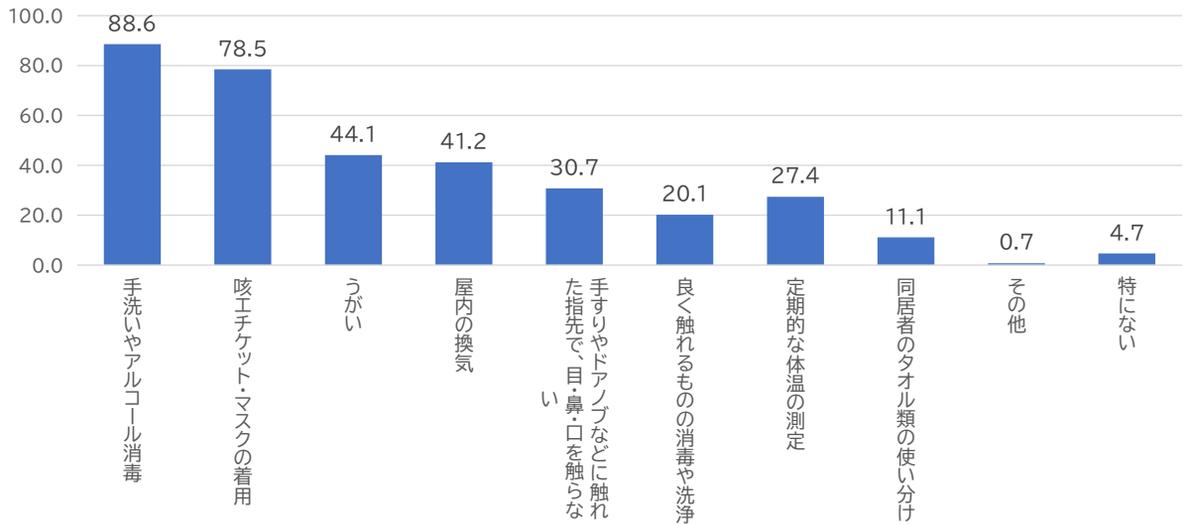
	3月	4月	6月	11月		3月	4月	6月	11月
1.効果的な治療薬やワクチンがないこと	○	○	○	○	11.人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなる	無	○	○	○
2.ウイルスが目に見えないものであること	○	○	○	○	12.世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいること	無	○	○	○
3.検査（PCR検査）を受けたくても受けられないこと	○	○	○	○	13.企業などの収益が悪化すること	無	無	○	○
4.持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じる	○	○	○	○	14.企業などの求人や採用計画が減少すること	無	無	○	○
5.感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと	無	○	○	○	15.収入が減少すること	無	無	○	○
6.日本でも、感染者の爆発的な増加が起り得ること	無	○	○	○	16.仕事の抑制や解雇・雇止めを受けること	無	無	○	○
7.感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起り得ること	無	○	○	○	17.生活の変化による心身の健康の悪化	無	無	○	○
8.いつまで続くのか、見通しที่ไม่いこと	○	○	○	○	18.子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響	無	無	○	○
9.自分が感染したら、自身の情報や行動内容が明らかになること	○	○	○	○	19.自粛の緩和によって、電車やバスの混雑や人混みが避けられなくなる	無	無	○	○
10.自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと	○	○	○	○	20.感染者の減少から、再び感染拡大に向かうこと	無	無	○	○

■感染防止のために特に気をつけて行っていること (M.A.)

- 感染防止で特に気をつけていることでは「手洗い・アルコール消毒」(88.6%)、「咳エチケット・マスクの着用」(78.5%)が特に多く、それ以外は半数以下の実施率であった
- 少数派ではあるものの、気をつけて行っていることが「特にない」と回答した人が4.7%あった
- 性別にみると、気をつけて行っている取組項目すべてにおいて、女性の回答比率が高い

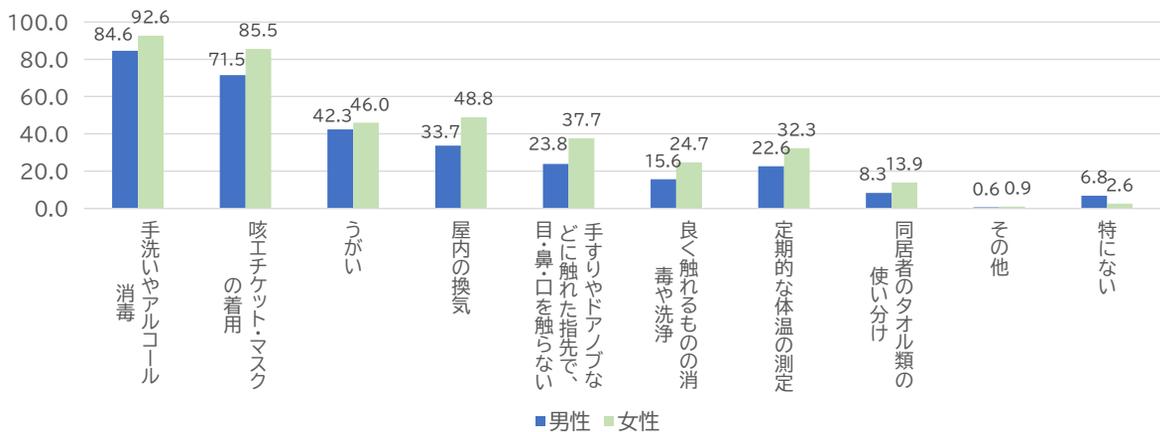
感染防止のために特に気をつけて行っていること

n=4700 単位：%



感染防止のために特に気をつけて行っていること (性別)

性別 各n=2350 単位：%

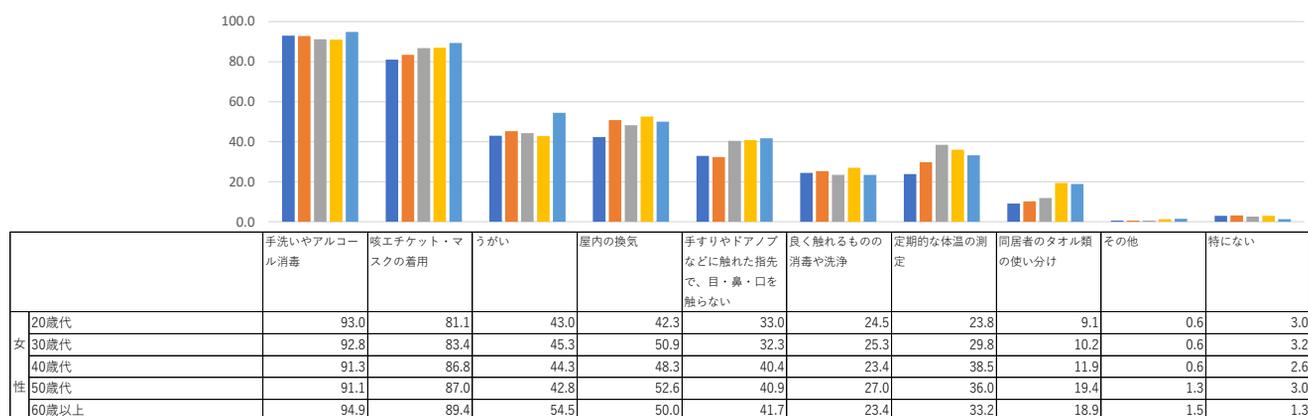
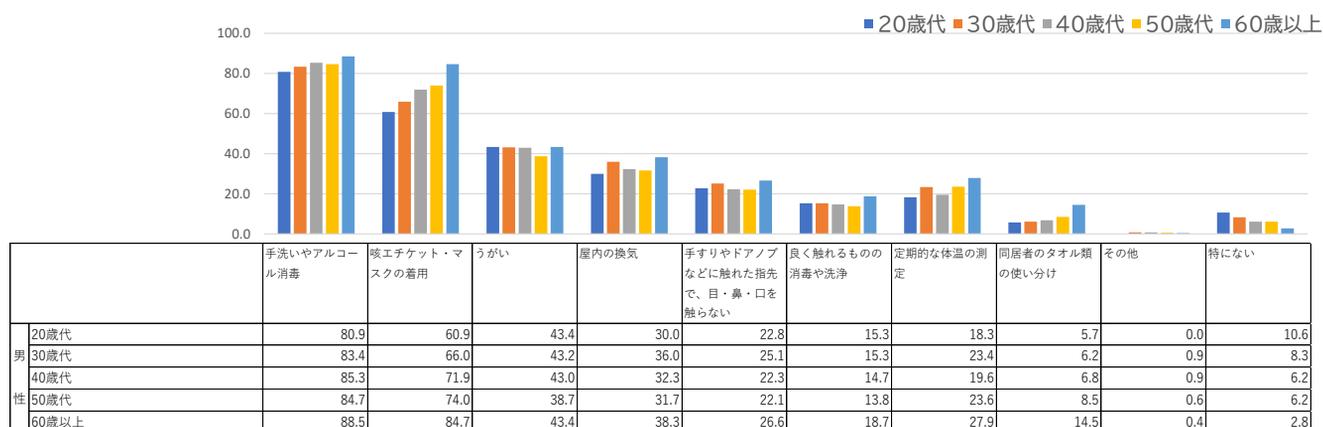


■感染防止のために特に気をつけて行っていること (M.A.)

- 気をつけて行っている取組項目を性・年代別にみると、全体のトップ項目である「手洗いやアルコール消毒」については、男性若年層の回答比率がやや低いことがわかる
- 全体の第2位となっている「咳エチケット・マスクの着用」では、男女ともに年齢層が高くなるほど取組率が高いが、その傾向は男性により強く、男性の60歳以上では女性の平均的比率（約85%）相当の水準だが、20～30歳代は6割台、40～50歳代は7割台である
- 「特にない」と回答した人は、男性20歳代で10.6%と最も高い

感染防止のために特に気をつけて行っていること (性・年代別)

性・年代 各n=470 単位：%

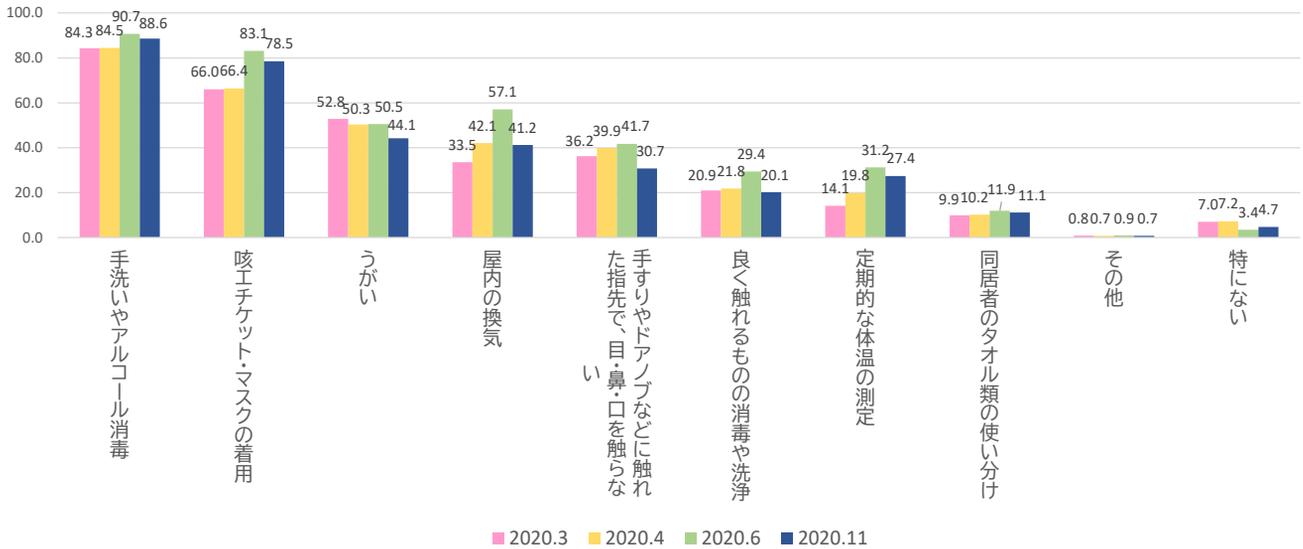


■感染防止のために特に気をつけて行っていること（M.A.）

- 6月の調査結果と比べ、手洗い、マスクの上位2項目でも実施率が横ばいもしくはやや低下している
- 6月との差が最も大きいのが「屋内の換気」で、約16ポイント低下している
- 「手すりやドアノブなどに触れた指先で、目・鼻・口を触らない」も6月比で約11ポイント低下している

感染防止のために特に気をつけて行っていること（時系列比較）

各n=4700 単位：%



■感染症拡大の防止行動（M.A.）

- 感染症拡大防止行動の上位3項目に注目すると、トップ項目の「人が密集するような場所へ行くことを避ける」は、4月の調査結果に比べ約5ポイント減少している
- 第2位の「人と接する場合は距離をとる」は、4月の調査結果に比べ、約11ポイント高くなっている
- 第3位の「食事会や飲み会などに行かない」は、4月とほぼ同水準であった
- 他は、4月より回答比率が下がっている項目が多く「必要以上に買いだめしたり…」では回答がほぼ半減、「ショッピングセンターやショッピング街などに行かない」は、約13ポイント減少
- また「食料品など日常の買い物の回数を減らす」「ドライブや観光などに行かない」「スポーツをしたり公園で遊ぶことをしない」といった項目で、およそ6～7ポイント減少している

感染症拡大の防止行動（時系列比較）

各n=4700 単位：%

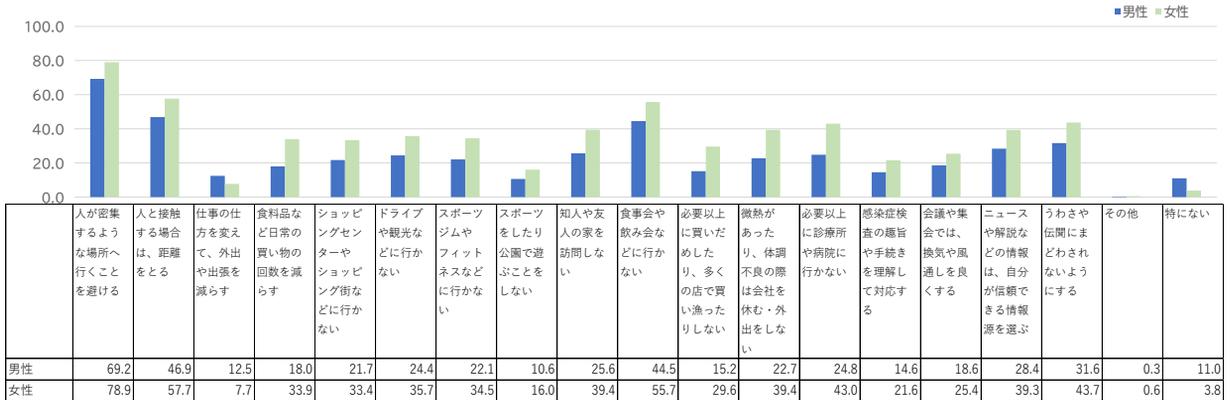


■感染症拡大の防止行動 (M.A.)

- 性別にみると、感染症拡大防止行動の各項目で、女性の回答比率が総じて高めている
- 全体の上位3項目をはじめ、多くの項目では男女ともに年齢層が高くなるほど取組率が高く男性の場合は60歳以上で取組率の高さが目立つ

性別 各n=2350 単位：%

感染症拡大の防止行動 (性別)



感染症拡大の防止行動 (性・年代別)

性・年代 各n=470 単位：%

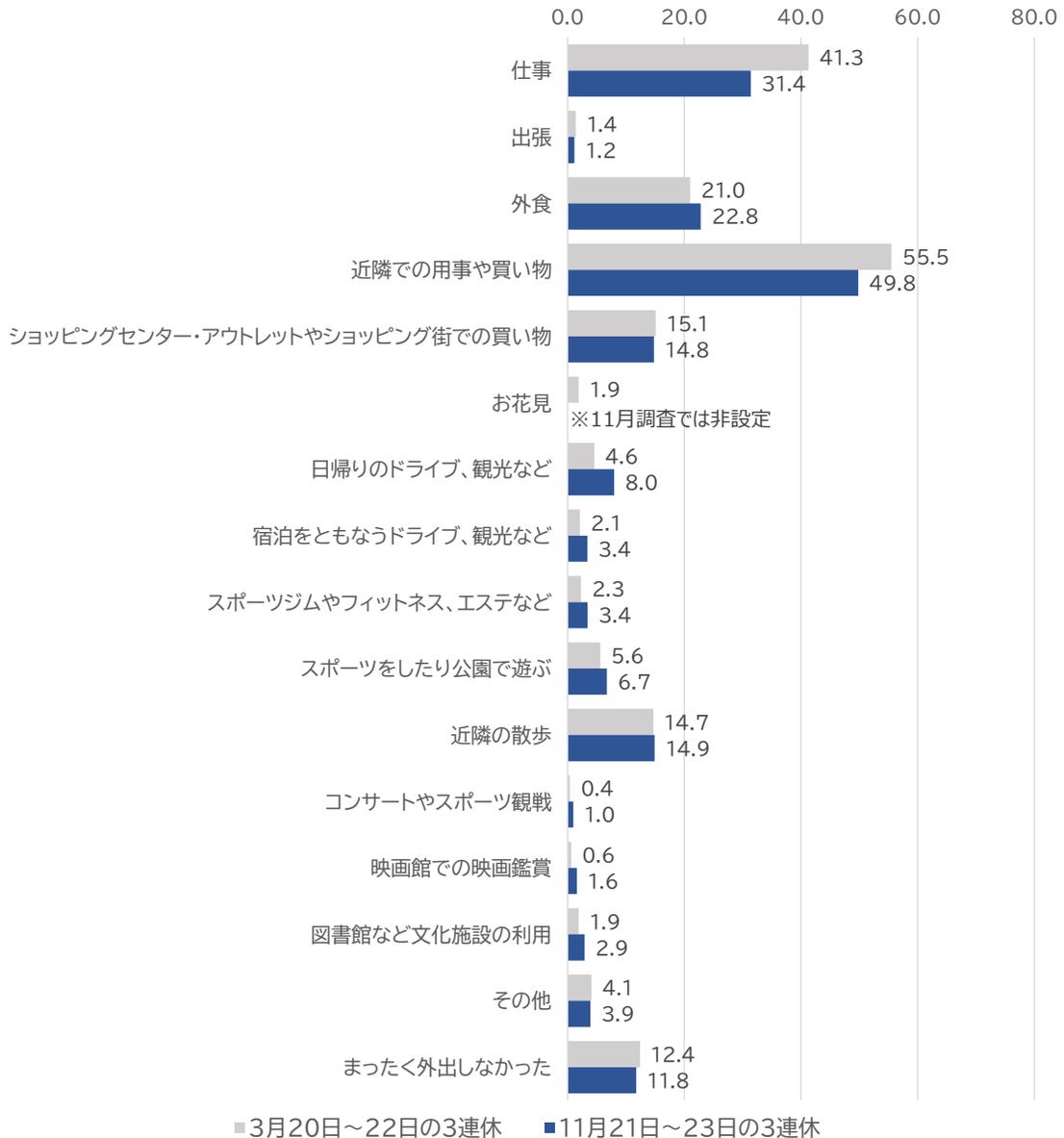


■11月21日（土曜日）～23日（月曜日・祝日）の外出行動（M.A.）

- 11月23日の月曜日（勤労感謝の日）を含む3連休の外出行動では、「近隣での用事や買い物」が49.8%と最も多く、次いで「仕事」（31.4%）、「外食」（22.8%）の順となっている
- 3月調査において3月20日の金曜日（春分の日）を含む3連休について同様の質問を行っており、その結果と比べると、上位項目のうち「近隣での用事や買い物」「仕事」では、今回調査の回答比率が下回っている
- 「日帰りのドライブ、観光など」では前回比で約3ポイント上回っており、他の項目ではほぼ横ばいとなっている

【全国】3月と11月・各3連休の外出行動の差（時系列比較）

各n=4700 単位：%



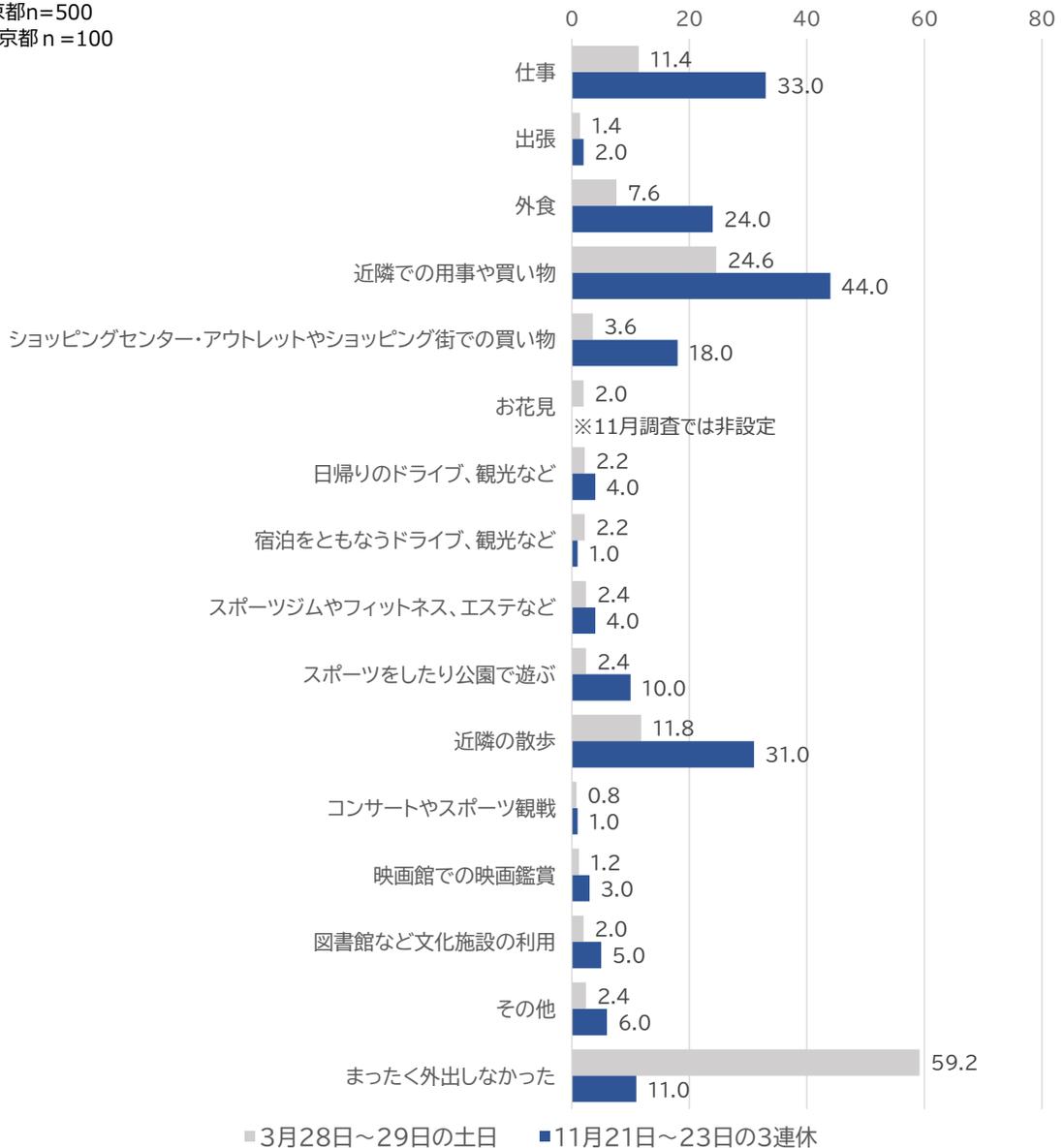
■11月21日（土曜日）～23日（月曜日・祝日）の外出行動（M.A.）

- 感染拡大のいわゆる第一波において、3月25日に東京都知事が「週末の外出自粛を強く要請」した直後の土日である3月28日～29日の外出行動を4月調査でたずねている。この結果と今回の11月21日～23日の3連休の外出行動を、東京都居住者の回答結果で比較する
- 最も際立っているのは、3月28日～29日に「まったく外出しなかった」との回答（59.2%）に対し、11月3連休では5分の1以下の回答比率となっている点である
- 外出用途の中で、3月当時を20ポイント前後上回っているのが「仕事」と「近隣の散歩」、15ポイント前後上回っているのが「外食」と「ショッピングセンター・アウトレットやショッピング街での買い物」である

（※ 3月28日～29日の外出行動については、日単位で質問しているため、土日のいずれかあるいは両方に行動の回答があるものを再集計している。また11月調査は3連休の間について総合的にたずねたものであることに留意されたい）

【東京都】「3月25日都知事の外出自粛要請後の土日」と「11月3連休」の外出行動の差（時系列比較）

4月調査・東京都n=500
11月調査・東京都n=100
単位：%

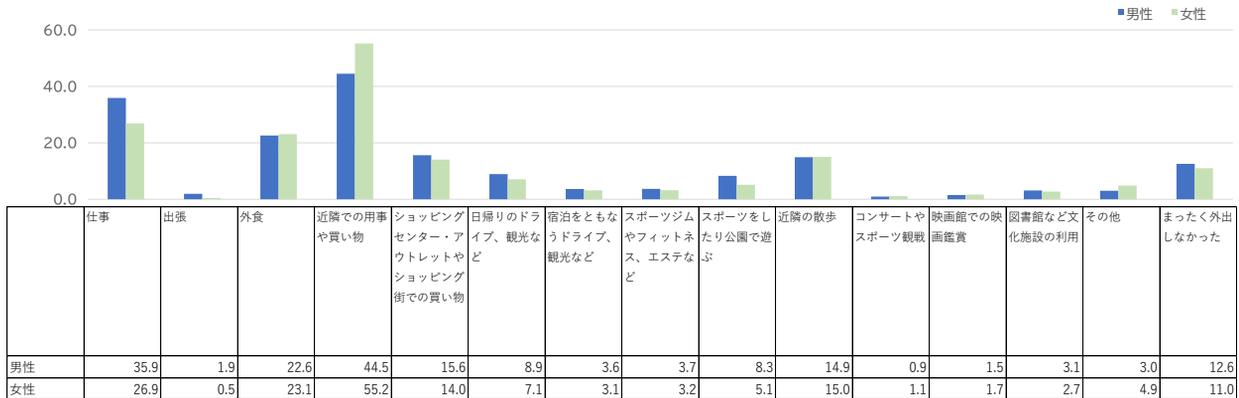


■11月21日（土曜日）～23日（月曜日・祝日）の外出行動（M.A.）

- 11月の三連休の外出行動を性別にみると、「近隣での用事や買い物」は女性でやや高く、「仕事」は男性でやや高くなっている
- 性・年齢別にみると、「近隣での用事や買い物」は中・高齢層に比較的多く、「仕事」は男性の30～50歳代に多い
- 「外食」は若年層ほど多く、その差は女性に顕著である

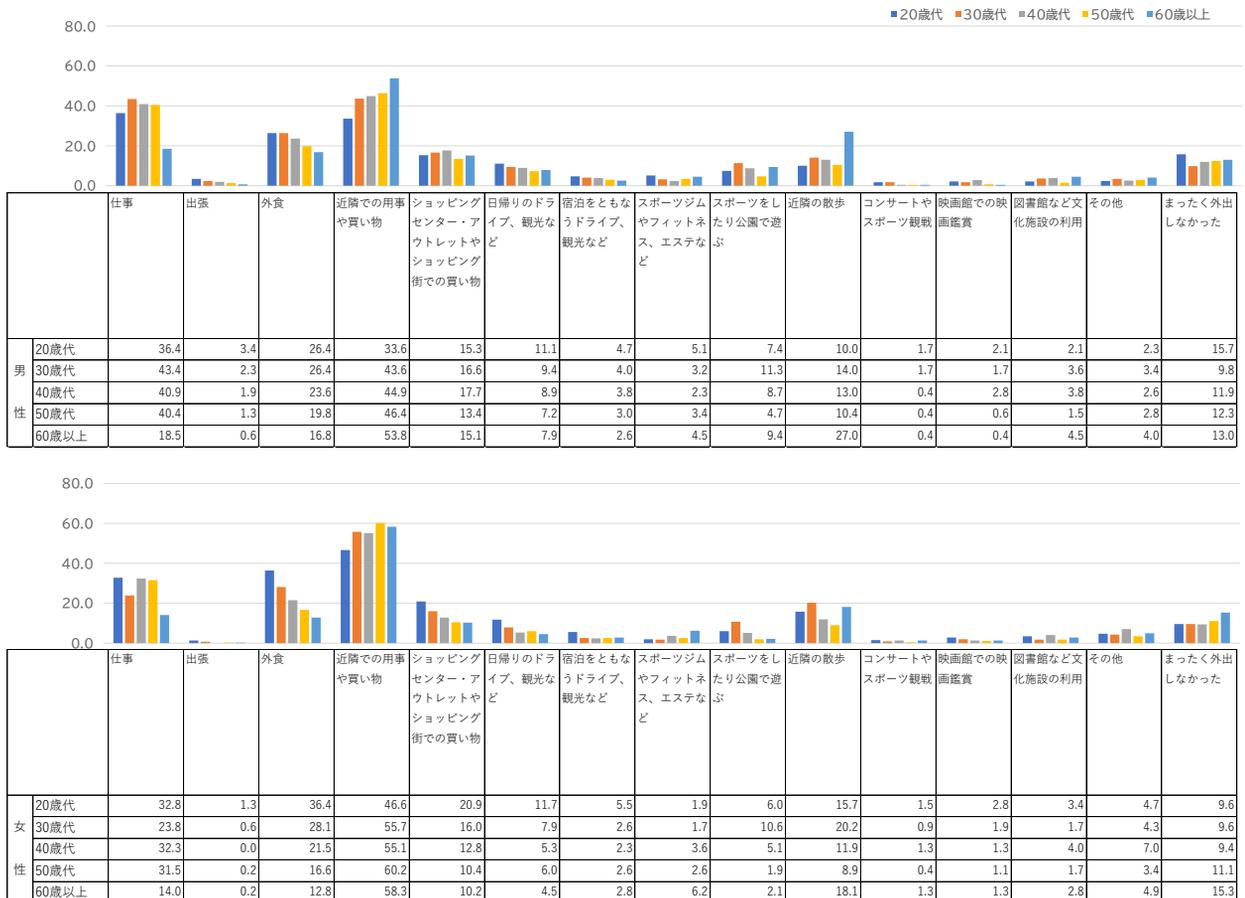
11月21日（土曜日）～23日（月曜日・祝日）の外出行動（性別）

性別 各n=2350 単位：%



11月21日（土曜日）～23日（月曜日・祝日）の外出行動（性・年代別）

性・年代 各n=470 単位：%



■調査実施概要（第4回調査）

- 調査地域 全国
- 調査方法 インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）
- 調査対象 20歳以上男女モニター
- 有効回答 ①全国47都道府県 各100サンプル割付回収（全4700サンプル回収）
※上記の設定は、都道府県別集計を各地で用いて頂けるよう考慮したものである
- 調査内容 基本属性／感染症に関する不安／感染・重篤化への不安／11月21日（土曜日）～23日（月曜日・祝日）間の外出／感染防止策／感染拡大防止のための行動
- 調査期間 2020年（令和2年）11月27日（金）配信開始～12月2日（水）調査終了
- 資料の見方 nと表記がある数値は、構成比（%）算出の基数（調査数）である
構成比（%）は、小数点第二位を四捨五入しており、合計が100.0にならない場合がある
M.A.と表記がある設問は、多肢式（複数回答可）のため、合計は100%以上となる

■参考（第1回～第3回調査の概要）

1. 調査の基本的なフレームは上記第4回調査と同様である

- 調査地域 全国
- 調査方法 インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）
- 調査対象 20歳以上男女モニター
- 有効回答 全国47都道府県 各100サンプル割付回収（全4700サンプル回収）

2. 各調査の実施時期

- 第1回 2020年（令和2年）3月6日（金）配信開始～3月9日（月）調査終了
- 第2回 2020年（令和2年）4月3日（金）配信開始～4月6日（月）調査終了
- 第3回 2020年（令和2年）5月29日（金）配信開始～6月2日（火）調査終了

※各調査結果の概要は、株式会社サーベイリサーチセンターのホームページに掲載している
<https://www.surece.co.jp/research/>

3. 調査実施体制

- 調査主体 株式会社サーベイリサーチセンター
SRC情報総研
- 監修・協力 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター（第1回、第2回）

■サーベイリサーチセンター 会社概要

- 会社名 : 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 : 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号

- 設立 : 1975 (昭和50) 年2月
- 資本金 : 6,000万円
- 年商 : 74億円 (2019年度)

- 代表者 : 代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
- 社員数 : 社員271名、契約スタッフ456名 合計727名 (2020年3月1日現在)
- 事業所 : 東京 (本社)、札幌、盛岡、仙台、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇

- 主要事業 : 世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ

- 所属団体 : 公益財団法人 日本世論調査協会
一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会 (JMRA)
日本災害情報学会
一般社団法人 交通工学研究会 他

- その他 : ISO9001認証取得 (2000年6月)
プライバシーマーク付与認定 (2000年12月)
ISO20252認証取得 (2010年10月)
ISO27001認証取得 (2015年11月) ※

※認証区分及び認証範囲 :

- ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供
- ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

■本件に関するお問合せ先

株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>

お問合せフォーム <https://www.surece.co.jp/contact/>

- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として「株式会社サーベイリサーチセンター」を必ず明記して利用してください
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです